

## 一般調査報告書

### ルーブル美術館が呼びかけている「寄付」について

ルーブル美術館は世界で最も有名な美術館の一つです。ミロのヴィーナス、レオナルド・ダヴィンチのモナリザ、ドラクロワの「自由の女神」など、知名度の高い作品群を豊富に所蔵しています。また、エッフェル塔、凱旋門などと並ぶフランス最大の観光拠点であり、年間約850万人が訪れます。(ちなみに、美術館・博物館の入館者数として世界一です。)



そのルーブル美術館が、2010年11月現在、1枚の絵の購入をめざして寄付を募っており、ちょっとした話題になっています。

実は、美術館が特定の絵の購入を目的に広く寄付を募るのは、欧米では珍しいことではありません。2009年には、イギリスのナショナル・ギャラリーが5千万ポンドの絵を購入するのに740万ポンド(1ポンド=136円として約10億円)の寄付を集め、購入に成功しています。フランスでも1998年の同様の手法で絵を購入し、この絵はルーブル美術館に収められた経緯があります。(ただし、この時点ではルーブル美術館は完全な国立美術館であったこともあり、活動主体はルーブル美術館ではありませんでした。)

このような形で美術館が募金を呼び掛けることは、もちろん資金獲得という具体的な目標を持ったものではありませんが、その根底には「国民の、国民のための、国民による美術館」の体現をめざす精神があり、美術館の在り方についての一つの理想の形を象徴したものであるようにも思われます。

今回の一般調査報告書では、今回のルーブル美術館による寄付募集について取り上げてその背景事情を報告するとともに、寄付を募ることの意義自体についても考えてみたいと思います。

#### 1 ルーブル美術館が呼びかけている寄付の内容

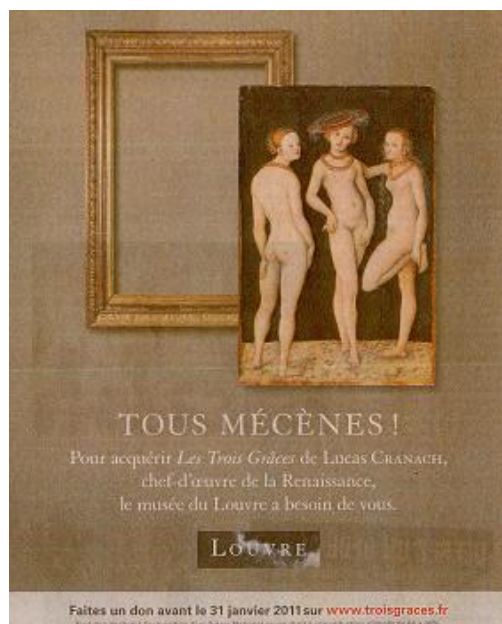
今般、ルーブル美術館が寄付を呼び掛けているのは、16世紀ルネサンス期のドイツの画家であるルーカス・クラナッハによる「三美神」という作品を購入するためです。1531年に製作されたもので37cm×24cmという小品ではありますが、ルネッサンスの影響を色濃く反映しており、保存状態も非常に良いことから、ルーブル美術館自身が「国宝にすべき作品」と評価しているものです。

これまで一般に公開されたことはないこの絵は、1932年に現オーナーの所有になったそうです。そして、現オーナーは今回この絵を売り出すにあたって4百万ユーロ（1ユーロ＝115円として4億6千万円）という値段を付けました。

ルーブル美術館はさっそく資金準備を始めましたが、企業からの大口の寄付などにより300万ユーロまでは調達できたものの、あと100万ユーロの目途がどうしても立ちません。「2・3年前までなら企業からの寄付でなんとかなったと思う」と担当者も言っていますが、昨今の経済状況のなかでは、企業からの寄付も思ったように集まらなかったようです。

今のところルーブル美術館に優先交渉権が与えられていますが、一方で交渉期限も設定されているようです。そこで、ルーブル美術館は広く一般に寄付を呼び掛けることにしたのです。寄付の呼び掛けは11月13日に始められ、来年1月31日を締め切りとしています。

ルーブル美術館自身が特定の作品の購入するためにこのような形で寄付を募るのは初めてということもあり、新聞等でも大きく取り上げられました。（そうでなくとも、上掲の広告が毎日のように新聞に掲載されています。）結果として、この原稿を書いている11月下旬までに約2200件の募金があり、既に所要額の3分の1までが集まっているとのことで、順調に寄付が集まっていると言えそうです。ちなみに、これらの寄付については、寄付額の66%までが所得税についての免税対象となるとのことです。



ルーブル美術館による寄付募集の新聞広告  
「メセナ活動家の皆様！」  
「ルネッサンスの巨匠ルーカス・クラナッハによる『三美神』の購入のため、ルーブル美術館はあなたを必要としています。」

## 2 ルーブル美術館の美術品・文化財購入予算について

ルーブル美術館は、今回の寄付募集について、次のように説明しています。少し長くなりますが美術館の運営状況がよく判るので、全文を紹介します。「ルーブル美術館は公的施設であり、その発展のために政府からの補助金の支給を受けています。しかしながら、著しく増加している入場者への対応、収蔵品の修復、遺跡の発掘事業、教育活動、展示スペースのリノベーション、新技術の導入、そしてコレクションの充実など、美術館の運営には多額の資金が必要であり、政府の補助金はそのうちの半分程度をカバーしているに過ぎません。残りは、美術館の独自収入によるものですが、その独自収入のうちの32%は寄付に頼っており、この比率は年々上昇しています。ルーブル美術館はこの世界遺産を守る活動のために皆様のご支援を必要としています。寄付金額はいくらでも結構です。額の多少に関わらずすべての寄付が記録されます。額の多少に拠らず皆様がお持ち寄りくださる寄付によって、比類ないこの作品の獲得が可能になります。」

ルーブル美術館は、2004年からオルセー美術館、ヴェルサイユ宮殿、ポンピドゥーセンター、ギメ美術館などとともに「文化施設公的法人」に改組され、それぞれ独立した自律性を持った独立法人になっています。これら美術館・博物館は、文化・コミュ

ニケーション省の管理下に置かれており、政府からの補助金も受けていますが、入場料額、開館時間などについて決定権を持つとともに、美術作品・文化財の収集についても自律的に判断する権限を持っています。

ルーブル美術館の年間予算は2009年の場合で約3億5874万ユーロです。このうち、美術品・文化財購入費決算額については、970万ユーロ（1ユーロ＝115円として約11億円）とされています。2010年予算については明らかになっていませんが、ほぼ同額であると仮定すると、今回の「三美神」はこの予算内で十分に購入できる価格です。もちろん、他に購入を予定している作品や遺物もあるのですが、日本とは違って財政年度の始まりが1月1日とされているフランスですから、新年度の予算で購入することも可能であると思われます。

それをあえて寄付で購入費用を賄おうとしている背景に、ルーブル美術館の意図が透けて見えるように思われます。

### 3 おわりに ～ 今般の寄付の呼び掛けの意義について ～

ということで、ルーブル美術館による一般へ寄付の呼び掛けについての意味・意義を考えてみましょう。

まずは、寄付を呼び掛ける趣旨どおり、名画のフランス国外流出を防ぐという意義は明らかでしょう。さらに、ルーブル美術館という公共の美術館に展示されることにより、広く数多くの人々が鑑賞できるようになります。美術品の維持・展示活動に対する国民の関心も高まることでしょう。

また、ルーブル美術館にとっては、美術館の活動を社会にアピールする良い機会になっています。つまり、フランスの美術品を守る活動をしているのだ、とのアピールです。このアピールは、同時に、予算が必要なのだとの主張にもつながっています。こう考えていくと、今回の寄付の呼び掛けは、ルーブル美術館にとっては、大義名分も明らかで、かつ、自分たちの日頃の活動について広く社会の理解を訴える機会になっていると思われます。美術館として上出来な戦略的な活動といえるでしょう。

ただし、そこは皮肉好きのフランス人です。フランスでの報道を見ていると、うがった意見も目立っています。例えば、クラナッハがドイツを代表する画家の一人であることから「あんまりフランスとは関係がない絵なのに」という意見もありますし、「ルーブルには既にクラナッハの絵があるのだから、もう十分じゃないか」とする意見もあります。さらには、美術館が寄付を募ること自体について、「広く一般から寄付を募ることで、企業によるメセナ活動への注目度を上げようとしている」とか、「あらかじめ絵の話題性を高めようとする企みではないか」というもっともらしいうがった意見もあります。

ただ、いずれにしても、この絵そのものの知名度・話題性が大きく膨らんだのは事実であると言えます。もし今回の寄付金集めが成功すれば、来年の春にはこのクラナッハの「三美神」がルーブル美術館に展示されることとなります。その時には、話題に敏感なフランス人たちが大挙して美術館を訪問するでしょう。ルーブル美術館にとっては、まったく損のない話です。

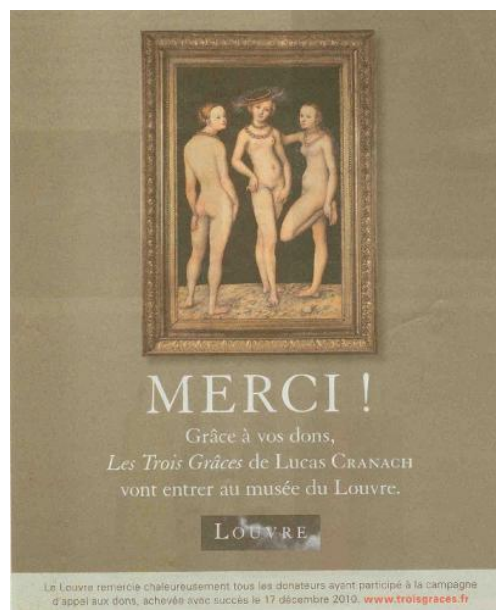
## 〈追伸〉

12月17日になってルーブル美術館から「寄付のおかげでクラナッハ作品の購入が可能になった」との発表がありました。11月半ばから呼びかけを始めたので、およそ1カ月で目標金額を達成したことになります。もともと1月末を締め切りにはしていたので、想定よりもずっと順調に寄付が集まったと言えます。

総寄付件数は5000件以上、1ユーロから4万ユーロまでの様々な金額の寄付があり、平均の寄付金額は150ユーロだったとのこと。また、企業や財団からの寄付もあったそうです。

ルーブル美術館はさっそく来年3月上旬から4月上旬にかけて今回のクラナッハ作品の特別展を開くこととしています。その側には、寄付をした人の名前も掲示されるそうです。さらに、200ユーロ以上の寄付をした人を対象にした「特別公開」が企画されているほか、500ユーロ以上の寄付をした人には「先行公開」も行われるそうです。

こちらフランスの新聞紙上等でも、今回の成功は、一般への寄付の呼び掛けが高騰する美術品の購入に有効な手段になり得ることを証明した先例になるとして、高く評価されています。



### ルーブル美術館が寄付者に感謝を伝える 新聞広告

#### 「ありがとう！」

「あなた方の御寄付のおかげで、ルーカス・クラナッハの『三美神』はルーブル美術館に収蔵されることになりました。」

「ルーブル美術館は呼びかけにお答えいただき御寄付くださった皆様に『熱く』お礼申し上げます。」

※ 募集段階の広告では額縁に入っていないかった絵が、今回の広告では額縁にしっかりと収まっています。